

---

# 落っこちてきた剣アーチャーさんの話

naka

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

落つこちてきた剣アーチャーさんの話

### 【Nコード】

N0927Y

### 【作者名】

naka

### 【あらすじ】

TOAとFATEの無茶なクロスオーバーです。アビスの世界に残念な感じでアーチャーさんをつっ込んでみました。続きません。

**（前書き）**

アーチャーファンの皆様ごめんなさい。

それは深淵に一振りの剣が降り立った日。

その日の夕暮れは空を赤く染める太陽がよく見えて、渡り鳥が虹色に染まった雲をくぐりぬけ、すでに姿は遥か遠く空は赤く赤く染まっていた。

そこは屋敷の裏庭で一番目立たず人通りの少ない場所で、ルークはそこにある一番背の高い木に登って何をするでもなくぼんやりとしていた。

遠くから何か声が聞こえた気がして後ろを見たら、何かが髪をかすって落っこちていった。

驚いて危うく木の枝から落ちそうになり、あわてて体勢を立て直して下を見ると一振りの剣が庭に突き刺さっていた。

どこからともなく「身体は剣でできている」と繰り返しつつ言っているのが聞こえて、「とうとう頭がおかしくなっちゃったのかなー」とつぶやいた。

それはとても不思議な剣で、「召喚したのは君か」とか「どうしてこんな姿で」とか「幸運に恵まれなさ過ぎる」などよくわからないことをベラベラ喋って、ルークを困惑させた。

それでもルークの境遇を話せば、「この通り手も足も無いが、話し相手ぐらいにはなるう」と気持ちよく承諾してくれた。

不思議なことにどんなに力をこめても、剣を土の中から引き抜くことができなかった。それでも話すことには問題は無く、毎日のようにそこでいろいろな話をしていた。もっと不思議なことは、その

剣をルーク以外見ることができないように誰も彼も無いものとしてスルーしているのだった。

ルークの方もその剣の話をしようとしても何故か言葉にすることができず、結局ルーク一人の秘密として胸にしまっしかなかった。

それから何年もたって、その剣は退屈な日々を送るルークにとっては無くてはならないものになっていた。

その日も、いろいろな話をしていたがルークの剣の師匠が来たというところでそこを離れてしばらく経ったとき、聞き覚えの無い歌が聞こえてきた。

そのあとしばらくルークが現れることは無かった。

屋敷内での騒ぎからルークがどこかへ行ってしまったということにはわかったが、剣はそれこそ手も足も出ずそこに突き刺さっているしかなかった。

それから幾重もの朝と夜が過ぎて、ルークが帰ってきた。

鮮烈な赤のイメージを纏う懐かしい女性を伴って。

その女性、凜はその剣を見て「あーはは、アーチャーが剣！あはは」「剣できてるところか剣！」「なにそれーおながが嫉れそう！」「などと指差して笑ってたが、そこは優秀な魔術師であるからあっさりと封印を解いてしまった。

なんで剣の状態なのかはわからなかったが、なんだかんだでルークの旅に付き合うことになった。

そしてアクゼリユスにて、ルークが尊敬する師匠の姦計にかかって、その内に秘める力で1つの街を滅ぼそうとしたその瞬間。

「問おう。君が私のマスターか。」

白い髪と浅黒い肌の赤い外套を羽織った騎士がそこに降臨した。

それから先は蛇足な話。

正義の味方が現れたあとは平和になるのを待つばかり。  
それはきつとハッピーエンド。

## （後書き）

今、考えているクロスのプロトタイプです。

どう考えても続かないのでお蔵入りしたのですが、もったいないので短編という形で発表させていただきました。

このあとはアーチャーの無双と凜の魔術（含むうつかり）でどうにかなると思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0927y/>

---

落っこちてきた剣アーチャーさんの話

2011年11月13日07時31分発行